



御修復のあゆみ く伝承された先達の願い

仮阿弥陀堂への改修工事



[上] 改修工事の様子
[左] 金紙貼りが施された仮設板壁



来年一月から阿弥陀堂御修復工事が始まります。それに先立ち、御本尊・阿弥陀如来を仮阿弥陀堂（御影堂九字之間）に御動座するため、十月二十日から十一月二日までの期間に御影堂九字之間の改修

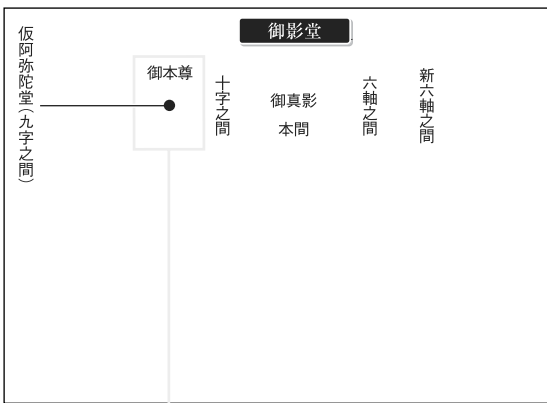
工事が行われました。

仮阿弥陀堂となる御影堂九字之間は、親鸞聖人の御真影（内陣正面）に向かって左側二つ目の余間にあり、「南無不可思議光如来」の九字名号をお掛けしていることからその名前がつけられています。

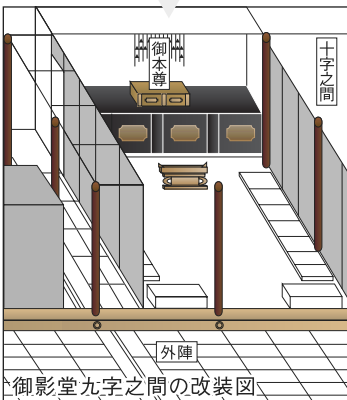
阿弥陀堂御修復工事が完了し阿弥陀堂へ御還座されるまでの約四年間は、御本尊が仮阿弥陀堂に安置されるため、御影堂内における両堂形式をもって、平常のお勤めや報恩講、春の法要等が勤められます。このたびの改修工事では、まず仮阿弥陀堂となる床面の畳を



タイル敷設後の様子



羅網の吊り下げ作業の様子



一度全て捲り、板養生をした上に黒色のタイルを敷き詰め、さらにワックスを二回塗り重ねることで艶を出しました。また、御本尊を安置するための箱礼盤や羅網などの仏具を新たに調製し、あわせて仮設の板壁を設置し、その上に金紙貼りを施しています。その他にも照明の増設など細部にわたっての改修工事が行われました。

御本尊の御動座後は、いよいよ、阿弥陀堂の御修復が開始されます。